

ある殺し屋の鍵 (1967)

メディア 映画

ジャンル サスペンス

製作国 日本

色彩 Color

初公開日 1967/12/02

【解説】

「ある殺し屋」シリーズ第二作目。藤原審爾の原作『消される男』を「処女が見た」の小滝光郎がシナリオ化し、前作「ある殺し屋」でもメガホンをとった森一生が監督した。市川雷蔵が非常な殺し屋に扮し、華麗なテクニックでターゲットをしとめる姿を描く。

新田の表の顔は日本舞踊の師匠だが、裏の顔は凄腕の殺し屋だった。石野組幹部の荒木から、政財界の秘密を握る脱税王の朝倉を暗殺するよう依頼された新田は、朝倉の定宿であるスカイライン・ホテルへ。プールで朝倉の命を狙う新田だったが、日本舞踊の弟子である芸者の秀子の出現により中断を余儀なくされる。ようやく新田は朝倉を始末し荒木との約束場所に到着するが、そこに荒木の姿はなく無人の車が置いてあるだけだった。新田が乗ったその車は、ブレーキが意図的に壊されていた。それは荒木の裏切りを意味していた。

【クレジット】

監督 森一生

企画 藤井浩明

構成 増村保造

原作 藤原審爾

脚本 小滝光郎

撮影 宮川一夫

美術 太田誠一

音楽 鎗木創

出演 市川雷蔵

西村晃

佐藤友美

山形勲

中谷一郎

金内吉男

内田朝雄